

文書管理ソフト（CLINILAN PV pro）導入による法改正対応と業務への影響

◎亀甲 美佳¹⁾、瀧井 詩織¹⁾、毛利 明樹¹⁾、高木 奈穂¹⁾、津田 昌和¹⁾
社会医療法人 青洲会 福岡青洲会病院¹⁾

【はじめに】当検査室には各種検査マニュアルや精度管理台帳など多くの文書が存在し、紙での保管を基本的な運用としてきた。しかし、2018年12月1日に施行された医療法および臨床検査技師法の改正により各種作業書・日誌等の作成が義務化されたことで、当検査室が抱える文書はさらに膨大となっている。これを管理する方法として検査部門システムの文書管理ソフト CLINILAN PV pro（株式会社エーアンドティー）に注目し、2020年に導入が実現した。その結果をここに報告する。

【目的】文書管理ソフト（CLINILAN PV pro）導入による法改正後の対応と業務への影響を利用者の目線から分析・評価し、今後の運用につなげる。

【方法】

1) ファイル管理機能の分析：文書管理ソフトの文書保管機能と文書検索機能を評価する。さらに、文書管理ソフトを用いることでどれくらいの紙の消費を削減できているか算出する。

2) ワークフロー機能の分析：導入前後の回覧方法を比

較し、どう変化したか考察する。

3) 課内満足度調査：ソフトを利用する検査技師に対し満足度調査を行い、利用者の意見をまとめて分析する。

【結果】

1) ファイル管理により、膨大な文書の一元管理が可能となった。さらにペーパーレス化が進み、紙とスペースの消費が減った。

2) ワークフローの使用により回覧の進行状況を把握できるようになったことに加え、勤務状況に関わらず回覧が可能となり、従来の手渡しの手間がなくなった。

3) 課内満足度調査では、高い満足度評価を得た。

【考察】文書管理ソフト導入により、法改正に対応した文書管理が可能となった。さらに、多くの文書のペーパーレス化、効率的な文書検索、スムーズな回覧が可能となり、業務改善にもつながった。今後もこのソフトを活用して文書管理を効率よく、確実に行うことで、検査室の品質を保ちたい。

連絡先：092-939-0010

臨床検査システム内物品管理ソフト導入効果に関する報告

◎吉野 歩¹⁾、橋本 剛志²⁾、松元 亜由美²⁾、本郷 剛²⁾、一瀬 康浩²⁾、吉原 正保²⁾
国立病院機構 鹿児島医療センター¹⁾、独立行政法人 国立病院機構 熊本南病院²⁾

【背景】試薬管理台帳の整備は2018年12月の医療法改正により義務化されている。当院は2019年7月に手書き管理からFileMakerでの管理へ変更した。同年11月より株式会社アイディエスと検査システムIDS LABOWARE内の物品管理ソフト開発を行い、2020年2月より同ソフトを用いた管理へ移行した。今回、検査システム内物品管理ソフト導入効果の評価と当院で経験した管理手法(手書き、Filemaker, LABOWARE)の比較を行った。

【対象・方法】2018年12月から2022年3月までの試薬消耗品の使用履歴を対象とした。記録不備数, ABC分析, 年度別の購入金額, 平均在庫期間(月別), 在庫回転率, 在庫金額を評価した。

【結果】記録不備は手書き1465件, Filemaker551件, LABOWARE383件で物品管理ソフトの導入により減少した($p < 0.05$)。ABC分析におけるA群は免疫35%, 生化学7%, 凝固5%, 血液ガス4%, 微生物4%, 血液4%, 一般2%, 輸血1%であった。購入金額は2019年度277±204万円, 2020年度236±43万円, 2021年度297±43万円であった。売

上原価率は2019年度13.4%, 2020年度17.8%, 2021年度20.7%であった。在庫金額は2019年度629±124万円, 2020年度491±96万円, 2021年度461±50万円であった。LABOWARE導入後に在庫金額を最大352万円削減できた。在庫回転率は2019年度4.98±3.8, 2020年度4.6±3.5, 2021年度7.7±6.7であった。平均在庫期間(月別)は2019年度3.4±2.1, 2020年度4.6±4.0, 2021年度3.5±3.2であった。在庫金額や在庫回転率は改善されたが、購入額は増加した($p < 0.05$)。

【まとめ】検査システム内物品管理ソフト導入により作業の効率化が得られた。毎月の購入額や在庫額のバラツキ, 記録不備の減少が確認できた。在庫定数や発注サイクルの見直しを行えた事が在庫金額や在庫回転率の改善につながった。検査システム内物品管理ソフトは経営意思決定の上で重要で経営面から病院運営に貢献出来ると考えられる。

連絡先：099-223-1151（内線7315）

血液ガス分析装置のサーバー導入による一括管理の有用性

◎河野 真吾¹⁾、富田 遙加¹⁾、中山 梓¹⁾、熊谷 理絵¹⁾、吉田 雅弥¹⁾、山崎 卓¹⁾
熊本赤十字病院¹⁾

【はじめに】血液ガス分析装置は、急性期医療に欠くことが出来ない代表的な臨床現場即時検査（point of care testing : POCT）の1つである。POCTの特徴は検査結果の即時報告ができ、診断・治療に反映させることができる迅速性にあるが、近年は精度の確保が問題となっている。今回我々は臨床検査情報システム（laboratory information system:LIS）及び血液ガス分析装置の更新・増設に併せて、サーバーを設置し、検査室外の血液ガス分析装置の管理を開始したので報告する。

【対象】LISはCLINILAN GL-3(A&T社)、血液ガス分析装置はGEM5000(IL ジャパン社)を導入し、検査室：2台、救命救急センター：2台、血管造影室：1台、病棟：3台（ICU：1台、PICU：1台、GICU：1台）の合計8台の管理を開始した。また、サーバー(GEMweb Plus 500)を導入し、検査室で一括管理できるようにした。

【運用】検査技師が管理する以前は病棟の血液ガス分析装置がオフラインで運用されており、時系列のデータ管理が困難な状況にあった。しかしながら、LISと接続し、

オンラインの運用に切り替えたことで病棟スタッフの業務負担軽減に繋がった。またサーバー管理によって、検査技師が検査室内外の実機を確認することなく、機器の状態、試薬の残テスト数を把握できるようになった。精度管理については我々が得意とする分野であり、精度の確保も可能となった。

【課題】検査室が管理している血液ガス分析装置は8台であるが、まだ他部署で管理されている血液ガス分析装置（他メーカー）があり、それらはオフライン運用であるため今後の課題である。さらに他のPOCT機器も院内に存在しており、管理について検討する余地がある。

【まとめ】LIS及び血液ガス分析装置の更新を契機に検査室外の装置管理も開始した。検査技師が管理するようになったことでこれまで以上に精度の確保が可能となった。検査室の外で活躍できる技師の育成はタスクシフトにも繋がるため、臨床のニーズを見極めながら、推進していきたい。

連絡先：096-384-2111（内線 6372）